字輝人 vol.60

布絵本で子どもの夢・世界・可能性を広げたい――。

布絵本作り15年

物語が織りなす世界を指でなぞったり、引っ張ったりして触って遊べる布絵本。

目に鮮やかなデザインから飛び出す仕掛けや鳴り出す音は、ページをめくるたびに、子どもたちの好奇心をかき立てる――。

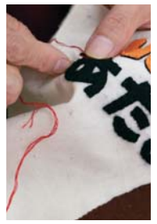
絵本の世界を針と糸で紡ぎ出すのは「きすみれ」の皆さん。不知火美術館のアトリエで布絵本作りを行っている。

15年にもわたるこの活動は、図書館のボランティア募集をきっかけに始まった。当初からの一員、永田房子さんは「始めた頃は手探りでしたが、今では地域の民話やオリジナルの作品も作るようになりました。」とほほ笑む。

命を吹き込む針

現在制作しているのは、英語の歌「Head, Shoulders, Knees and Toes」。えんぴつ描きの原画をフェルトに写してカットし、台座に刺しゅう糸で縫い付ける。子どもたちの喜ぶ顔を思い描きステッチを重ねる針は、まるで小さな魔法の杖。一針ごとに浮かび上がってくる登場人物は今にも動き出しそうだ。

見学に訪れたのは春休み期間中の子どもたち「早速やってみたよ♪」



丁寧で温かみのある一針

コロナで活動できなかった時期もあったが、対策を講じて活動再開

表情豊かな登場人物たち　立体的で優しい触り心地

「楽しい」が原動力に

「手仕事好きが集まって、自分たちのペースで作っています。」「みんなでアイデアを出し合って、和気あいあいと話すのも楽しいのよ。」「出来上がっていく喜びもあるけれど、ここに来るのも楽しみの一つ。」「集まる日は早起きなの(笑)。」

口々にそう話す生き生きとした表情からは、楽しむことの大切さが伝わってくる。

想像力と工夫を重ねて

「子どもたちの発想から得るヒントも多いですね。私たちも日々勉強です。」と、何色もある中から糸を選んで配色し、子どもの視覚を刺激するように、音や重さで聴覚や触覚を刺激するようにと工夫を凝らしていく。

「子どもたちだけでなく、親にも布絵本の良さを実感してもらえるかな。」「親子で楽しんで、本が好きになったら、図書館通いが増えるかな。」

本の向こう側を思い描く彼女たちの想像力は、新たな工夫を生み出す。

子どもに色とりどりの世界を

「ふわふわの手触りが布絵本の良いところ。多くの人に手に取ってほしいです。現在63冊。100冊を目標に、貸し出しできるようにしたいですね。」

読む楽しさを伝えたいという想いは、今日も子どもたちの世界を優しく彩る――。

きすみれ Kisumire

平成19年発足。平成29年度熊本県優良読書グループ表彰受賞。毎月第1・3木曜日に不知火美術館アトリエで布絵本を制作している。現在63冊を中央図書館に収蔵。迷路やクイズ、国が推奨する1日当たりの野菜摂取量350㌘の重さを再現したタペストリーなども制作。自由に見学可。興味がある人はぜひご連絡を。
問 中央図書館 ☎32-6211

読み聞かせボランティアをする永田さん

音が出るパズル